

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600178		
法人名	株式会社実喜		
事業所名	つまごい笑みの里暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡嬭恋村大字今井下石津1287-68		
自己評価作成日	令和5年3月	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型共同生活事業所なので、入居者様一人一人のペースで生活してもらえるような支援をしています。また職員は入居者様の現状を理解し日々変わる入居者様に寄り添う様に心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣住民に雪かきや草刈りを手伝ってもらえるようになり、地域と良好な関係を築いている。より良い近所づきあいは、いざという時には事業所にとって大きな助けとなり、利用者、職員の安心、安全につながる。日々の積み重ねを大事に運営してきた事業所の存在が地域に認知されていることがうかがえる。また、一人ひとりの利用者をしっかり見ることで特徴を浮かび上がらせ、職員はその特徴ある利用者の生活上の様々な場面に合った役に徹した支援に努めている。そして、利用者が自分の主張を受入れてもらえ、自分らしく安心して生きていける場所を提供している。職員が利用者をよく見、深く理解する洞察力を持って、理念に基づいた支援に取り組んでいることがわかった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【その方らしく過ごすことができる】と言う事を大切にしています。入居者様の対応が統一して出来るよう申し送りやカンファレンスを行っています。	職員の利用者への答え方や答える内容によって利用者が不穏になることがあり、職員は利用者を否定せず受容し、時にはジェスチャー等でコミュニケーションを図る等理念に沿った実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウィルスの影響で、イベントや外出もできにくくなっています。しかし近隣住民の方が、雪かきや、草刈りなどを手伝ってくれたり、地域の皆様から助けってもらっています。	ギター演奏等の訪問もなく、これまでのような地域との交流はないが、近隣住民が雪かきや草刈りに協力的で、地域との良好な関係性が見られるようになった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村内の方から、どのような施設・どのような人が対象なのか、又入所までの方法など聞かれる事があるので聞かれたときにはその都度対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウィルスの感染対策の関係で、運営推進委員会の会議は中止しています。運営推進委員会の方々には資料を作成し郵送にて運営内容は周知してもらっています。	書面開催とし、入居者現況報告、誕生日会、農作業、おやつ作り、ゲーム等をまとめた行事報告を「運営推進会議報告書」として、家族や役場に隔月で郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様の利用状況や、生活レベルなどの報告をしたり、新型コロナウィルスの感染対策の事などを情報交換したり協力関係を築いています。	コロナ感染症に利用者、職員が罹患し、役場から防護服等不足する物品の援助を受け、連携を図りながら乗り切ることができた。また、介護保険の更新代行や認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の配置や・人数・その日の入居者様の精神状態により手動に切り替えています。また拘束になる言葉かけにも注意するようにしています。	玄関は電子錠ではあるが、手動にするよう心がけている。スピーチロック等、身体拘束についてのマニュアルに沿ったケアに取り組んでいるが、勉強会は特に行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同、虐待について理解し、話し合うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要になった場合、関連施設や村の担当の方と相談し、協力・支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、入居者様とご家族に対して理解しやすいように説明し、契約内容を十分に理解して頂いてから契約しています。解約の際も同様、理解して頂いてうえで解約の手続きを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの感染拡大により、面会が中止になったり、ガラス越しになったりしていますが、何かある際は連絡を各ご家族の方の意見を聞き反映するようにしています。	利用者、家族の要望に応え、ガラス越し面会を実施しているが、感染症拡大に関する行動規制が緩和される中、家族に理解を求める手紙を送ったり、利用者の近況を知らせる取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や業務に関しての提案は、職員から申し出がある場合には懷疑などで議題に上げて話し合った上で必要に応じて変更します。	月1回、管理者、ケアマネジャー、職員で話し合いの機会を設け、面会について、利用者の見守り、個別ケアの方法等で工夫点、わからない点について話し合い、情報を共有し運営につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の生活環境を把握し、話し合いながら就業時間や、業務形態を考えています。また、就業実績に応じて評価し昇給などしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近年は新型コロナウイルスの影響で外部の研修・講演会などに行く機会がないのですが、また安心に行けるようになれば行ってもらいたいと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で同業者との交流の機会もあまりないのですが、受診の際や役場に行くときなどに情報交換をするよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には、出来る限り事前にその方と家族に会いに行き情報収集をしています。最近は新型コロナウイルスの影響で面会できないこともあります。紙面にて情報をもらい職員に提示し、入居後も安心にて生活できるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族の方にもあり、入居者様の生活歴や現在の生活状況を伺い、どんなことで困っているか、ADLの把握をしどのようなサービスが必要か話合います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面会をもとに、今後はどのような支援をしていけばよいかを話し合い、その方や家族の方にあったサービスが提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活をする中で、安心してその方らしく生活できるように入居者様一人一人にあった声かけ・支援をこころがけています。(新型コロナウイルス以外)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、入居後の生活の状況・身体状況など変化があったときには必ず連絡をし一緒に今後どうしていくか考えていくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のなじみの方に会う事や、行くことができないのが現状です。しかし可能な限りお孫さんや親せきの方などはガラス越しで会えるようにしています。	コロナ禍前は、不穏状態になった利用者の家族に電話で相談すると、家族が夜間迎えに来て外泊してくる等、利用者と家族、事業所と家族の関係が機能していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や、不穏の兆候などを把握し席を考慮しています。しかしトラブルがいつどこで起きるかわからないのでその日の表情や言動には十分注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際は、終了後も相談しやすいような声掛けをするように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が、どのような暮らしをしていたか、又入居後はどのような生活を送りたいかを会話の中から探り希望に沿って生活できるようにしています。	家族からは電話や面会時に意向を聞いているが、「今まで通りで」との返答が多い。利用者からは直接話をする中で、思いや意向を推し測り把握に努め、他の職員やケアマネジャーと共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に入居者様の生活歴・病歴、今現在の生活リズムなどを把握し、その情報を職員で共有するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムや定期受診・生活状況などの情報を記録し共有することで現状を把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症の症状が悪化してしまっても入居者様本人の思いを出来る限り暮らしの中で理解し、ご家族と共に話し合い又必要であればその他の関係者の方とも相談し本人にとってよりよい生活が送れるように介護計画を作成しています。	業務日誌に「プラン目標実施確認」欄があり、実施、未実施を毎日モニタリングし、記録している。計画は3ヶ月ごとに見直し、その際担当者会議を開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況・受診時に変更などがあれば状態把握や個人ノートに記入し職員全員が把握できるようにしています。受診の際に変化があった場合はご家族に連絡をして介護計画の変更や追加をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々生活する中で生じる様々なニーズに沿えるような柔軟なサービスが提供できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解したうえで入居者様が穏やかに安心して生活できるようにこころがけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する前には必ず主治医を確認しており、協力医の受診で良ければ職員対応で受診が可能であることを説明しています。入居後も適切な医療を受けられるようにしています。	入居時にかかりつけ医や家族の判断で、協力医を選択している。今回のコロナ感染により協力医が往診に切り替わり、職員が受診支援をすることになった。歯科は家族の付添いを基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際は、内容を状態把握に記入するようにしています。また処置などの指示が出た場合は看護職に伝達し施設内でも的確な看護が出来るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、入院先の地域連携室と連絡をとり入院中の身体状態などを聞き入居者様が早期退院・復帰できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した際には、今後起こりうる状態・終末期について本人・家族と話し合い、その結果を協力医・職員にはなし、適切な支援が出来るようにしています。	看取りの事例はあるが、現在は対象者はいないが、同意をもらっている利用者はいる。終末期の支援については臨機応変に取組み、緊急時には主治医に連絡をし、協力を得ることになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は対応マニュアルが作成してあります。しかし焦ってしまうこともあると思うので救急車の要請手順は見やすい所に貼ってあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接しているホームで協力しあい避難できるよう訓練を行っています。	コロナ感染症拡大の影響で2回目の法定の避難訓練は4月に延期となった。職員の入替えに伴い災害対応に連絡網を更新し、緊急時に備えている。また、食糧品、排泄用品等を備蓄している。	避難訓練、自主訓練を計画的に実施し、訓練の実施記録を残してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人間性を尊重し、声掛けや接し方を考慮し対応しています。また入居者さまのペースで生活できるように配慮しています。	着替えの際は居室に誘導したり、異性介助になる際は、「私でも良いですか」と尋ね、プライバシーに配慮している。席は相性や場面によって変え、利用者間のトラブルを回避する工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が、余裕を持って行動するように心がける事で入居者様も安心して思っている事が言えるような環境・人間関係を築けるようにこころがけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を聞いたり、生活の中でその方がどのような生活をしていきたいのかなどに気づき、希望に沿った生活ができるように毎日取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は新型コロナウイルスの影響で、希望時に訪問してもらうのではなく、三か月おきに訪問してもらいカットしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をすることが楽しむことができるように、毎食の献立を記入し提示しています。キザミやミキサーの方にはその都度説明するようこころがけています。	食事作りは朝、夕は専任職員、昼は職員が担当している。行事によって寿司の出前やケーキ、手作りおやつを提供し、馴染みの食材や味つけの食事を検食を兼ねた職員と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食記入しています。摂取が困難になってきた方は摂取できるものは何かなど話し合い、経口摂取が出来るよう心掛けています。また水分摂取状態は、夏場や入居者様の体調により観察しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個別に声掛けを行い口腔ケアを行ってもらっています。ADLに合わせて見守りや、軽介助、介助をし口腔内の清潔の保持を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のADL状態を把握し、排泄動作を観察しその方にあった支援をするように心がけています。また排泄状態に変化がある際は、職員で相談しその都度対応しています。	職員はチェック表に基づいて誘導し、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。自立者、見守りを必要とする利用者、夜間はおむつやパットを使用する等、レベルや状態に合わせたケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の予防や改善を心がけて、定期的な運動や水分摂取をするようにこころがけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の、気分や体調に合わせて入浴をしてもらっています。	入浴は週3回実施し、チェック表に記録している。長期間入浴を拒否している利用者には、本人の気持ちを優先し、無理強いをしない支援をし、今後入浴できるよう工夫ある取り組みを考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠出来るよう、寝具の持ち込みは可能としています。また、昼夜逆転してしまいうような方には、日中起きていられるような声掛けや対応を考えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服状況・内服情報は職員一同共有できるようにしています。また内服に変更があった際は申し送りをし、状態把握ノートにも記入をし全員が見られるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に聞いた、生活歴などの情報をもとにその方にあった時間の過ごし方や・気分転換が出来るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある際は、天候が悪くない限り散歩に行けるようにしています。また新型コロナウイルスの関係で外食などはできなくなっていますが、さくらを見に行ったりドライブなどをするように心掛けています。	コロナ禍前は、不穏になった利用者を家族が迎えに来て自宅に泊まる等、外出の機会があった。現在は、陽気が良い時に散歩をしたり、ドライブでお花見をし、受診のための外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自分で行っていましたが、今現在の入居者様の状態では難しくなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと希望がある際は、希望に沿って控えている番号に電話をしご家族にも対応してもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窓から自然な光を感じられるようにしてあります。また外出があまりできない利用者様に四季を感じてもらえるよう、四季折々の作品を作りホールや居室に飾るようにしています。	手作りカレンダーや献立があり、だるまや干支の手作り作品を棚に飾り、外の風景を臨む窓の両側に椅子を置いている。感染予防のため換気扇を用いたり、天窓を開け換気を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるホールは、固定の咳は決めずにその日の気分で座ってもらうようにしています。また廊下の端に椅子を置き外を眺めたりできるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際になじみのある家具・寝具などが持ち込み可能なことははなしており入居後も過ごしやすいような環境づくりをしています。	入居時に使い慣れた物を自由に持ってきてくれるよう説明し、筆筒やテレビ、寝具、食器、自宅で飾っていた物を持ち込み、馴染みある、その人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の残存機能を理解し、職員同士共有することでその方にあった生活空間づくり、生活支援が出来るようにしています。		